

# もてもて通信

2020 ペンテコステ号

Happy Pentecost!

5月31日、聖霊降臨日を迎えました。気温も上がってきて、マスクがうっとうしくなってきました。でも！命が大事です。

神戸教区のホームページに、聖霊降臨日の礼拝動画がアップされました。ご覧になると、驚かれると思います。聖歌は入堂と退堂だけ、しかも、オルガンの伴奏のみ。旧約聖書は芳我先生が、徳島インマヌエル教会から読んでいらっしゃる。そして、何より、説教がありません！

礼拝再開にあたって、神戸教区から「ガイドライン」がでました。その中に、礼拝は30分から1時間以内に納めるようにとあるので、「説教無し」は新しい礼拝様式なのかも知れません！

今、私たちは、変革が求められています。集まってはいけない。喋ってはいけない。歌ってはいけない。1つの杯から回し飲みするなんてもってのほか！という社会的状況の中、神様を賛美し、神様に感謝し、イエスに倣って生きていく。とても高い壁へのチャレンジです。

それでも常に前に進んで行かなければなりません。「元に戻る」ことはないでしょう。

礼拝のライブ配信が第1歩でした。今はビデオ会議システムで参加することも可能になりました。6月からは礼拝が再開されます。マスクの着用、手指の消毒、共用の祈祷書等の使用禁止などなど、イロイロ面倒なことがあります。でも、それは、お互いを守るため、教会を守るために必要なことです。まだ、最善の解決策が何であるかはわかりません。模索しつつ、ゆっくり進みましょう。

先日、徳島のエキュメニカル（超教派）の仲間で作った「徳島牧師フレンズバンド」で、『球根の中には』をオンラインで歌った動画を作りました。カトリック、長老派、バプテスト、ルーテル、改革派、日本同盟基督教団、日本福音教団、聖公会の8つの教派の先生方と家族が参加しました。

5月28日の徳島新聞にも取り上げていただきました。

それぞれバラバラだったり、ちょっとしたミスもあったりしますが、「神様を賛美しよう」「Stay home中の皆さんをばげましたい」という思いは一つなので、素敵な作品にしあげりました。どうぞ、以下のYoutubeチャンネルからご覧下さい。

<https://www.youtube.com/channel/UCaazKg10eY80LY8Yle743Xw>

## 特雇相談

不安に耐えながら過ごす人

県内外の設計事務所から

### 賛美歌で信者励まし 牧師ら コラボ動画配信

県内のキリスト教会有志が制作した賛美歌のコラボ動画（写真は一場面）

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、教会での礼拝などができなくなっているキリスト教の信者らを励ますべく、県内の教会有志がそれぞれの教会で賛美歌と一緒に歌うコラボ動画を（6分43秒）を制作し、動画投稿サイト「ユーチューブ」で配信を始めた。徳島、鳴門、阿南の3市と北島町にあるカトリック、プロテスタントなど8教派10教会の神父と牧師、家族ら16人が出演し、牧師をバックに賛美歌「球根の中には」を合唱する。「寒い冬の中、春は目覚める」「深い闇の中、夜明けが近づく」などの歌詞に、感染の不安に耐えながら過ごす人々に希望を持つてほしいとの思いを込めた。

多くの教会は人が密集する日曜礼拝などの中止を余儀なくされている。徳島市南佐古四番町にある徳島聖もてもて教会の伝道師宮田裕三さん（49）が5月上旬、教派を超えて親交のある教会関係者に動画投稿を呼び掛けた。宮田さんは「信者や人々のために何かできないかと企画した。歌を日々の力に変えてもらえたら」と話した。（河野大樹）

木造県営住宅  
設計業者選定審査  
5作品が1次通過  
県が全国初の木造4階建て集合住宅として建て替える県営住宅新浜町団地（徳島市）の設計業者選定に向けた1次審査が27日、ウェブ会議で行われ、5作品が通過した。

5月の教会の様子です。



カメラやコンピュータなどの機材だけで、誰もいない礼拝堂で行う礼拝は、最初、とても寂しく感じました。でも、礼拝後、「お家礼拝できました」とメッセージをいただき、カメラの向こうには皆さんがいると、感じることができました。

ライブは、全公開にしているのですが、テモテ教会の方々だけでなく、インマヌエル教会の方や、他の地域の方々も見てくださっています。

私自身も、他の教会の礼拝を覗くのが楽しみになりました。

徳島県は実質、感染者 0 人がつづいているので、県外から入ってくることに、だいぶ敏感になっている時期もありました。宮田家の車は品川ナンバーですので、徳島聖テモテ教会のステッカーを作って貼っています。

(聖テモテ・ボランティアセンターとは、以前、宮田が福島で関わっていたボランティアセンターの名前です)



集会もないので、訪れる方もいなくなった教会に、美しい声のお客様が時折、来てくれました。たぶん、インヒヨドリだと思います。十字架のてっぺんから、気持ちよさそうに鳴いていました。



「世の光」5月号の巻頭言は宮田せんせえでした。本当は、執事になってから執筆予定でしたが、按手が延期になってしまったので、肩書きは『伝道師』になっています。



今年も、「やまぼうし」が綺麗に咲きました。5月24日の礼拝には、満開のお花を飾りました。

5月31日 聖霊降臨日（ペンテコステ）



イースターも雨でしたが、ペンテコステも雨でした。あじさいを三木さんが持ってきてくださいました。聖霊降臨日ですから、十字架の飾りも赤、宮田せんせえのキャソックも昨年に続き、赤でした。写真を撮り忘れてしまったのですが、よく考えたら、今年が最後だったかもしれません。来年は、ストールを着けるので、赤いキャソックを着る必要がなくなってしまいました。祭壇中央に飾ったお花は、聖霊降臨日に良く使われるという「グロリオサ」（赤い花が多いのですが、今回は黄色でした）と、赤いお花を使って、花束を作ってもらいました。国府にあるお花屋さんですが、店主の方はイギリスで学ばれたそうで、色合いがシックなお花が並んでいました。



## これからのテモテ教会

\*6月7日（日）から、礼拝を再開します。ただ、ビデオ会議システムでも繋がりますので、ご自宅から参加できるかたは、そちらで参加してください。参加する場合は、<https://whereby.com/seitemote-tokushima-service> にアクセスしてください。使い方がわからない時は、礼拝前でもかまいません。どうぞ、ご連絡ください。午前8時から、今まで通りのみ言葉の礼拝をライブ配信いたします。そちらを見ていただくのも良いです。

\*6月20日（土）、10時30分から、徳島インマヌエル教会にて、神戸教区の執事按手式が行われます。ルカ宮田裕三聖職候補生が、執事に叙任されます。この状況を鑑み、参列者は家族と教会委員の方のみとしました。ライブ配信される予定です。どうぞお祈りください。

## みやた せんせえ より

私たちは、我慢をするのではなく、変わらなければならないのです。

私たちは、歩み続けなくてはならないのです。

津波が襲ってきた時に「私は家に残る」と言って亡くなっていった人が何人もいました。逃げて生き残った家族は悲しみに暮れてしまいました。

原発事故で家や街を失いました。元に戻りたいとみんなが思いました。原発事故の前の生活に戻りたいと。戻ることは叶いませんでした。

イエスが語り始めました、律法学者やパリサイ派の人たちはイエスを信じませんでした。新しい出来事に理解が及ばなかったのです。イエスを殺してしまうほどに新しい出来事を受け入れることが出来なかったのです。

キリスト教は次々と新しい出来事に出会い、その都度、新しく生まれ、新しく歩む歴史を重ねてきました。イエスが生きていた時代には、クリスマスもありません。復活祭もありません。賛美歌も歌っていません。もちろん教会という建物もありません。それどころか会堂を失ったキリスト者たちはディアスポラと呼ばれる離散した人たちの集まりでもありました。それが私たちキリスト者の信仰の始まりです。

6月20日(土)に徳島インマヌエル教会で行われる私の執事相手も、聖歌を歌いません。聖歌隊も来ません。ゲストが来て挨拶もありません。祝会もありません。静かにただ祈りの言葉だけです。主教さんからの相手だけがその証しになります。いま私たちは初代教会のキリスト者たちと同じ信仰を体験しているのかもしれませんが。今までと同じ礼拝は出来ないのです。我慢ではなく新しい一歩なのです。

インターネットはつながりますか？

徳島聖テモテ教会ホームページ

<https://www.seitemote-tokushima.org/>

ビデオ会議システム礼拝用

<https://whereby.com/seitemote-tokushima-service>

礼拝ライブ配信 Youtube

<https://www.youtube.com/channel/UCaazKg10eY80LY8Yle743Xw>

日本聖公会神戸教区ホームページ

<http://www.nskk-kobe.org/>

緊急事態宣言が解除されましたが、東京や北九州では、いまだに感染者が増えているようです。スーパーに行っても、レジの前に近づきすぎないためのマークがあったり、ビニールの幕が張られていたりします。

きっと、これから先、これが標準になるのでしょうか。生活も、教会も、徐々に変化していくのでしょうか。それまでの常識をくつがえしても、命を大切にされたイエスに倣って、私たちも前に進みましょう！

マルセウ宮田美樹

2020/06/02 発行